

食べて交流 藤丸パーク

完成
内覧会 6日開業

「藤丸」再生を進める藤丸株式会社(帯広市、村松一樹社長)などが市西3南7の農協連ビル跡に整備を進めてきた屋外商業ゾーン「藤丸パーク」が完成し、6日午前11時にグランドオープンする。3日に関係者向けの内覧会が行われた。(佐藤いづみ)



藤丸パークは、藤丸が2030年をめどに複合商業施設を再整備するまでの「つなぎ」と位置付けられている。約3300平方メートルの敷地には、トレーラー型の仮設商業施設5店舗を核に、ステージや休憩スペース、ドッグランなどを整備。旧藤丸のロゴ(FUJIMARU)を看板などに使用。

完成した藤丸パーク(助川かおる通信員撮影)

内覧会であいさつする村松社長



ントも積極開催する。パークへの入場は無料。冬期間は閉業する。

内覧会では村松社長、新藤丸のブランディング支援や藤丸パークの設計監理などを担うスペース(東京都)の佐々木靖浩社長と田中三弘氏が登壇。村松社長は「想像以上の出来栄え。サポート企業や市民の皆さまの支えがあったからこそ。人が交流する拠点にしていきたい」と話した。

旧藤丸社長の藤本長章氏や米田社長、帯広信用金庫の高橋常夫前理事長、米沢則寿市長らも駆け付けた。営業時間は午前11時〜午後7時。初日は中心部を走っている「馬車Bar」の特別遊覧便(約8分)が無料で運行するほか、正午からはばんえい競馬の協力でオリジナルプリッツを100人に配布。大抽選会(3000円利用で1回)もある。(3面に関連記事)

資金調達などはそら(帯広市、米田健史社長)が担い、帯広信用金庫から土地を賃借した。事業費には藤丸サポーターとして企業や市民から募った協賛金(約3億円)などを充てた。

テナントは飲食がカレーのインディアン、藤森商会(帯広市)による「こんに

ちは」と、清水町の人気そば店「目分科」の新業態「STANDめぶんりょう」、ドネル式ケバブを提供する「トカチドネル」。それぞれ、キーマカレー(650円)や日替わりぶっかけ(1000円)、チキンケバブ(850円)などを販売する。直営の藤丸ショップは食と暮らしの2店。中でも五つ星のザ・ペンシユラホテルのブランド商品の取り扱い、道内初とし、マンゴープリンなどをそろえた。また、食や音楽などのイベ